



製鐵事業調查會報告ニ係ル事項

製鐵所設立目的

一 軍用鋼材、供給

二 普通鋼材、供給

第二製鐵所設置地撰擇ノ条項

一 防禦区域内

二 海陸運搬ノ便利

三 原料供給ノ便利

四 工場水料、存在

五 職工募集及工場用品供給ノ便利

六 製品販賣ノ便利

第三海陸運搬ノ便ヲ有シ石炭供給ニ便ナル箇所ヲ順序的ニ列

舉セバ左ノ如シ

礦石ノ各地ニ在ルカ故ニ一定シ難ク
調査會報告書ニ詳ナリ

大正十一年四月
限侯齋郵寄贈

一下、関海峡

二、廣島海峡

三、三尾^原道海峡

四、神戸大坂地方

前項、外山内長官、調査シタル事項

地盤、物價、工銀、衛生、天候、地震

実視又ハ地圖ニ就キ取調ヘタル箇所

大坂 神戸 備前海岸 和田宇野 田井、辺

尾道 三原 廣村 呉ノ隣 瀧アリ 横濱 宇品、近傍 坂村、内

徳山湾 門司 大里 柳ヶ浦 小倉 板 櫃

若松 八幡 ^{附戸畑} 博多 ^{是ハ三池炭山 廻田、序一見}

右之内

大阪ハ地盤悪シク地價并物價非常ニ高ク創立費多額ヲ要ス

ルノミナラス石炭ヲ九州ニ仰ク故ヲ以テ作業上ニモ不利多シ

神戸モ地盤狭ク地價高キノミナラス用水ニ乏シ

備前ノ海岸ハ海深キモ更ニ水ナシ

尾道ハ地所廣カラス又水モナシ

三原モ地盤廣カラス水ヲ得ルニ遠シ

廣村ハ山手一里、所ニ瀧アルモ既ニ電氣引用、許可アルヲ以テ

此瀧ヲ利用スルヲ得ズ且海面打開ケテ風、防キナク船、碇泊

ニ便ナラス

徳山湾ハ水深ク防禦モ先ツ差懸ナカルヘキモ横濱即阪村、廣島

ニ近キニ若カス石炭、運送ニ至テハ横濱ト差異ナク輸出品ハ

廣島ヨリ少キ論ヲ誤タス依テ此地ハ候補地トセス

門司ハ地狭ク水ナシ若松ハ水ナク且地モナシ戸畑ハ地廣キモ川

ナク加ルニ海面ヨリ窺ヒ易シ是等、箇所ハ固ヨリ製鉄所ヲ設

製鉄所

置スヘキ地ニ非ラズ

博多湾ノ多々羅村字名島ハ遠浅ニシテ防禦ナリ且玄海アリ
大阪ト交通不便ニシテ^{石炭}近傍ニ存在スルモ蒸氣用ニシテ^トコークス
製造ニ^通ス依テ最初ヨリ候補地ト為サズ

如斯クナルヲ以テ廣島縣安藝郡、阪村^{即横濱}、福岡縣下^ト救企郡
柳ヶ浦^{大里}同郡小倉、板櫃并遠賀郡八幡^{尾倉枝光大藏、三村合併村}、四ヶ所
ヲ候補地ト定メ慎重ニ調査セリ

防禦

此点ニ於テハ安藝郡、阪村ヲ第一トシ企救郡柳ヶ浦之レニ次キ
遠賀郡八幡ハ第三ニ位ス然モ軍艦航路ヨリ遠ク距リ且槇山ア
リテ海ヨリ見ヘス六連島其外數ヶ所ニ堅牢ノ砲臺アリ且小瀬戸
ヨリ水雷艇ヲ出ス、便アルヲ以テ敵艦容易ニ襲入レ得ル、地勢ニ
アラズ(博多、如キ者ニアラズ)

地盤

阪村

山手ハ花崗石層ナルモ平地ハ第四期新層即砂土、沖積セルモノニテ
相州江ノ島ノ子瀉、如シ半島ハ森山ト稱シ凡五百尺ノ高サ
アリ地峽ハ左右ニ高キ堤防アリテ内ハ地低ク海面ト大差ナレ本村
モ埋立地多シ茲ニ製鉄工場ヲ設立スルニハ森山、裾ヲ削テ棧橋
ヲ築キ本村裏手ノ山ヲ平ケテ工場ヲ造リ鐵路ヲ以テ棧橋ト連
絡スル、外ナレ且地區甚ク狭シ^(地峽并ニ本村ト合セ平地十七八坪ナリ)

柳ヶ浦 即大里

海岸ハ沖積層ナルモ山手ハ中生層即(メソゾイック)ニシテ阪村比ス
レハ建築ニ適セリ地區ハ阪村ヨリ廣キモ地價最モ高シ

板櫃

地盤ハ柳ヶ浦ト大差ナシ

八幡

枝光、海岸ハ沖積層ナルモ尾倉、方ハ天然、地盤ニシテ花崗石層ナレバ工場建築ニハ最モ適當ナリ地區モ又廣シ

附言

名島(博多湾内、多々羅村)ハ沖積層或ル箇所ハ第三紀層(即チ石炭層ナリ)

用水

阪村ハ一里余ヲ距テ海田川アリ水少ク色ヲ帯ルモ害ナレ其量ハ十分ナリ(水源ハ深ク水路ハ皆花崗石層ナリ)此水ヲ引クニ凡一里半余、鐵管ヲ要ス

柳ヶ浦ハ小倉、紫川ヲ引ク、外ナシ該川ハ千壽製紙會社ニテ用ヒ水質良ナリ距離一里半余(紫川、水路ハ中生層地多シ)

板櫃ニハ同名、川アリ上流ハ大藏川ニシテ水質、清良ナルハ同屬九州鐵道工場、実験ニ依テ明瞭ナリ水量ハ十分ナリ

八幡ニハ大藏川(板櫃川)ノ用水アリ水量十分ナリ自今四十五年前

嘉永六丑年大旱、勉五月廿三日ヨリ八月二日マテ照續キ一点、雨ナシ然モ此用水、田ハ豊熟獲見ヲ受ケス田租ヲ納ム云々元莊主芳賀氏及枝光、老人安藤又四郎、證言アリ

附言 名島ニハ多々羅川アリ水路石炭層ナレ其質ハ遠賀川ノ水ト同シカルベシ

水利

阪村、半島森山裾ハ内外共ニ水深ク棧橋百間ヲ出ワハ直チニ相當、大ナル船ヲ横繫シ得ベシ凡三四尋

柳ヶ浦ハ海岸ナルモ與治兵衛暗礁アリ且潮流強キヲ以テ巨費ヲ投入シテ棧橋ヲ造ルモ大船、横繫ハ甚ク難シトス解ヲ以テ積ム、外ナシ

板櫃ハ小倉沿岸遠淺ナルカ故ニ水利ニ最モ不便ナリ

八幡沿岸淺瀬ヲ浚渫スルハ深ク十五尺以上ヲ保ツト安シ目下淺
筋ハ十二尺ナリ若松入口ハ現今十五尺以上トス故ニ目下巨船ハ素ヨ
リ出入スルヲ得ケルモ千噸以下ノ船ヲ入ルヲ得ヘシ(固ヨリ船ノ構造ニ依ル)

附言名島ハ遠淺ニシテ且年々多々羅川ヨリ吐出スル土砂ノ為メニ

海底ヲ埋ル傾キアリ船ヲ以テ海上三里ヲ航シ久保(半島ノ)

ヲ三乃至四尋一辺碇泊ノ大船ニ送ル外ナシ而テ其通路ハ年々浚

渫セサレハ土砂ノ為メ淺瀬トナルベシ

大阪トノ交通

一阪村海田市兵衛鐵道落成ノ上ハ直チニ神戸大阪ニ通スルヲ以
テ陸路大阪トノ交通ハ他ニ優レリ然レ海路ニ至テハ外國ノ郵船、
日本郵船會社其他上海浦塩行等ノ船ハ寄港セサルヲ以テ
海路交通ニ至テハ門司ニ一步ヲ讓テサルヲ得ズ

一門司若松ハ石炭積ノ帆船海北海廻リ上海浦塩行等大阪神戸

ト連絡スル船舶ノ通路ナレハ水路ノ交通ニ至テハ阪村ニ優レ萬々ナリ
又若松ト小倉下ノ間トハ毎日二回午前後午後汽船ノ往復アレバ不便ア
ルヲナシ山陽線落成スレハ陸路ノ交通モ便利トナル

附言博多ハ帆船ナレハ下ノ間ニテ風侍ナラカシムルハカラズ汽船ト

至モ自今大阪商船會社ノ外寄港セサルヲ以テ大阪トノ交

通ハ他ニ比シテ不便トセハサルヲ得ズ

石炭運搬ノ便

阪村ハ全然九州ヨリ船ニテ石炭ヲ得ルノ外策ナシ門司市品間百三哩(十三時間)若松門司十哩(百三十三哩)

柳ヶ浦ハ豊州鐵道及ビ金辺蘇筑豊西鐵道ヨリ出ル石炭ヲ九

州線ニ依リ工場ニ来スノ外ナシ

板櫃モ畧同様トス

八幡ハ一方ニ筑豊(既設)筑紫(既設)西川(未設)三線一方ニ豊

州(既設)金辺(未設)西線ヨリ運出スル筑豊各地ノ石炭ヲ黒崎線又

ハ小倉線ヨリ工場内ニ来スヘク又遠賀川ヲ下シ木屋瀬ノ下ヨリ
運河ニ入り洞海ニ出テ水路工場ノ棧橋ニ陸揚スルヲ得ヘク石炭
供給ニ於テハ八幡ヲ以テ最上至便ノ地トス

附言名島ハ第三紀層ニテ近傍石炭アレ区域狭小且蒸氣用

ニテ「ゴークス」ノ用ニ適セス筑豊煤田・炭ヲ得シハ龍王嶽

(高六百)ノ山間ヲ越ル鉄道ニ依ラサルヘカラス其不便知ヘシ

鑛石ヲ得ル便

鑛石ノ著名ナルハ内地ニ在テハ第一釜石(カウ子)次キニ仙人^同又尤モ
溶解シ易キ(ヘマタイト)ハ新潟縣・赤谷又砂鐵ハ各地方ニ散在
ス(柳ヶ浦附近ニモ良質ノ「ク子タイト」アリ)外國ニハ朝鮮又浦塩港
附近ニ磁鉄鑛ノ最上ナルモノアリ故ニ鑛石ハ奥州東海岸及日本
海ヨリ出ルモノト仮定シ各地ノ便利ヲ考ルニ

阪村ハ中國ノ中央ニ在テ航海ニハ便ナルモ輸出ノ物品多クラハルヲ

以テ其運賃ハ門司ト差異ナシ(仮ニ釜石ヨリ来ルトシ)其北海又ハ浦

塩ヨリ来ル物ニ至テハ門司ノ方便利ナル論ヲ誤タヌ

柳ヶ浦及櫃^枚ハ皆門司或ハ柳ヶ浦ニ解テ以テ陸上スルノ外ナシ

八幡ハ大船ヲ入ル能ハサルモ釜石ノ棧橋ニ横繫スル船ハ直チニ

若松ニ出入シ得ルヲ以テ他所ヨリモ便利ナリ

近時西洋ニ於テハ鑛石運送ノ為メ特別ノ船アリ其構造達磨

船ノ形ノ如ク艀ニ蒸氣機関アリ現今米^同ニテ用ルモノハ速力十

二海澤馬力八百五十三ニシテ能ク三千噸ノ鑛石ヲ積ミ喫水僅カ十五

尺半ナリ如此キ船ヲ新ニ製造スルハ若松現今ノ深クニテモ尚能

ク三千噸ノ船ヲ出入セシムヘシ況ヤ廿尺ノ深サト為スニ於テオヤ(別紙参照)

附言

名島ハ本船ヨリ解ニ積ミ三里ノ海上ヲ運送スルカ

又一旦陸ニ上ケセヨイル余ノ鐵道ニテ運テ外ナシ

西戸ヨリ名島ニシ

凡七八ノイニナラン

運賃ノ差

製鐵所ニ於ケル最大緊要物ニシテ殊ニ多量ヲ要シ又將來事業擴張ニ伴テ多ク益々多キヲ要スルモノハ石炭トス故ニ欧州ノ製鐵所ハ石炭産地ヲ撰ミ鑛石ハ海外ニ仰クモノ多シ英ノアールストロング獨ククルフ皆鑛石ヲ西班牙ヨリ輸入スルニテ運賃ノ關係ニ外ナラス

坂村ハ門司若松ニ比シ鑛石其他ノ材料運賃ニ於テハ差異甚少クシテ而シテ門司若松ナキ石炭水運ノ費用ヲ負擔セザル

ヘカニズバ僅ニ現今ノ消費高石炭一ト年廿一萬六千〇四十三噸トスルモ其運賃參拾二萬七千三百〇五十四錢五厘門司若松同航送費八十錢

積卸ノ幸錢合計一四四錢郵便會社若松門司同航送費一十五錢或船一十五錢出港錢二錢五厘一ト一十五錢即一噸ノ運賃身他諸費合計全志同五拾五錢トナル

但坂村ニ於テハ製鐵品等ハヲ小陽鐵道ニ依テ直ニ大阪ニ送ルノ便アリテ少ク却減ヲ得ル如アルモ八幡村ニ於テ水路ノ運賃ヲ拂フベキ噸數僅ニ十八萬千七百〇一噸石炭一噸ナルモ坂村ニ於テハ其上ニ

石炭廿萬六千〇四十三噸ヲ加ヘ三十九萬七千七百四十四噸トナルヲ以テ各種物品運搬總費額ニ於テ遂ニ全十八萬九千四百八十元八四十八錢多ク払ハサルヲ得サルニ至ル蓋シ^取坂村ノ方ニ最モ利益アル計算ニシテ尚如^新差アリ

附言 石炭石ハ坂村ハ幡西処共其近傍ニアリシ共此計算中ニ加算セズ

博多名島ニ於テハ山間ヲ越ヘ石炭ヲ運搬セサルヘカラス其運平地鐵道運賃ノ比ニアラハル論ヲ設クテ試ニ名島ヨリ飯塚マテ計ルニ十七ハマイル許而テ飯塚ヨリ折尾ヲ經ハ幡ヲテハ二十三マイルニシテ些ニ七コウリノ差ニ過キズ

物價

從前廣島ハ物價安廉ナリシモ近來ハ非常ニ騰貴シ他ト異ナラス統計表ニ依レハ或物ハ福岡ノ方安ク又或物ハ廣島ノ

方廉ニシテ著シキ差異アルヲ見ズ

工銀

廣島縣下ハ前年ハ工銀安廉ナリシカ近年ニ至テハ大工鑄物鍛冶等製鐵所ニ要スヘキ職工ハ賃金騰貴シテ却テ福岡縣下ノ方廉ナルカ如シ各工場ニ就テ職工賃平均ヲ調査スルニ就レモ三拾五錢(吳三池川司取ユ)ニシテ各地殆ント差異ナキカ如シ

衛生

坂村ハ幡西処ハ傳染病少ク柳ヶ浦板櫃ハ門司小倉ニ接近セラルヲ以テ赤痢虎病等多シ最近安藝企救遠賀三郡患者死亡百分比例如左(十六七八三年平均)

安藝郡	患者 一〇二	死亡 〇三八
企救郡	患者 一五三	死亡 〇四九
遠賀郡	患者 〇六一	死亡 〇二五

但三八幡村、左、如シ

遠賀郡八幡村

戸數三百七十九 靴一戸六八強

年数 人口 虎病死亡 赤病死亡 腸病死亡 寒病死亡

廿二、二六三 | | 四六 | 八 | 三 | 一 | | |

廿二、二六〇 | 四 | 二 | 五 | | 四 | | 一 | | 一 |

廿二、三〇一 | | | | | 一 | 二 | 一 | | 一 |

三十年一月調

八幡村役場

附言 フラリヤハ八幡村ニシテ昨廿九年板櫃ニ貳名ノ間歇熱

アリ 八幡村、醫師足田光太郎證明

天候

宇品 昨^{廿八}年^{報告廿六}、^{七八三年成績} 雪二九 快晴五〇 雨一二九 曇一

測候所、調 風力一秒時間十米以上、日數五十七日（積荷差支、自一年中七日四分）

若松^{廿七}年平均 雪六半 晴二三三 雨七二半 晴五三半

右ハ若松石炭業組合事務所、調ニ依ル

最大風力 廿五年西^{廿五米} 廿五年^{十三以上} 廿六年北^{廿一米}

廿七年北^{十六米} 廿八年南^{廿六} (博多、調)

若松港風雨、為ノ船舶出入ヲ断テ日廿七年ニ半日廿八年ニ

二日(半日ツ) 右若松石炭業組合事務所、調ニ依ル

最高温度極數、中數

下、関 三三、六 廣島 三五、〇

最低温度極數、中數

下、関 零下三、〇 廣島 零下五、六

若松、調査ナシ

地震

地震ハミルン氏、調査ニ依ルニ筑前國若松地方、最

モ少ク安藝國ハ筑前ニ比スレハ多シ別図ニ就テ見ルベシ

結論

抑モ製鐵所ハ軍器材料、鋼鉄ヲ供給シ併ニ普通鋼材ノ供給ヲ為ス所ナリ而シテ最近陸海軍等需用ノ高ヲ見ルニ一々年平均需用高豫算調製前

陸軍 二千噸餘

海軍 七萬噸

鐵道 六萬七千噸

造船外其 五萬噸餘

凡十三萬噸

ナレバ普通鋼材ノ需用最モ多キニ居ル須ラク經費ヲ節減シ經濟的ニ製造スルハ五風ナカルヘカラス又創立費ニ於テ豫

算既ニ確定、今日政費多端、際俟ニ將來、擴張ヲ期シ既定額ヲ變更増カスルヲ得ル故ニ工場創立、上ニ於テモ可成的節減以テ既定額ヲ超過セサルヲ勉メサルヘカラス此兩目的ヲ以テ前述ノ數々条ニ就キ各候補地ヲ調査スルニ廣島、坂村ハ防禦ノ点ニ於テハ一等ニ位シ其海水深キモ石炭産地ニ遠ク且宇品ニ戻リ荷少キヲ以テ運賃自ラ高ク作業上多費ヲ要シ其創立費ニ於テモ山ヲ平々低地ヲ埋立一里半、間ニ鐵管ヲ引キ二十尺以上、海ニ棧橋ヲ造ル等費用 尠カラズ且地區モ甚タ廣カラズ柳ヶ浦ハ地價最モ高ク用水ハ小倉ヨリ引カサルヘカラス而シテ沿岸棧橋ヲ設ケルヲ難シ之ヲ築造スルモ船舶ヲ横繫スルヲ得ズ板櫃ハ水流最モ近キニアルモ鐵道、外運搬、便ナシ而シテ八幡村ハ今日ニ於テハ(將來ハ二十尺トナルヘキモ)海ノ深サ十五尺ヲ限リト

仮定セサルヘカラスト金モ船舶、構造其宜ヲ得レバ(欧米ニ於テ
鑛石鉄類ヲ運搬スルニ特別ノ船形アリ)十五尺以下、水入ニシテ
能ク八百乃至千噸、鑛石ヲ積ミ得べく、漕筋ヲ淺深スレバ
工場棧橋ニ於テ荷物ヲ積卸スヘシ又重量品ヲ搭載スル
ニ砲運丸、如キアリ敵ヲ差込ヘアルヲ防禦ノ点ニ至リモ阪
村ニ比スヘカヲ知ルモ六連嶋其他數ヶ所、砲台アリ容易ニ
敵艦ノ近ヨルヘキニアラズ且ツ中間山アルヲ以テ海ヨリ見ルヲ得ズ
又八幡村、内字尾倉ノ地ハ天然ノ地盤ニシテ花崗石層ナ
レハ工場建築ニ最モ適當ニシテ多費ヲ要セス地價如キモ
安ク井水ニ富ミ工場ノ用水ハ大藏川ヨリ自然勻配ニテ清
水ヲ引クキ得ベシ(分水点ヨリ尾倉ニテ水助ニテ十六丁)其量
モ亦十分ヨリ将来二三千萬、基金ヲ事業ヲ擴張スル
ニ至テ萬一水ニ不足ヲ告ルヲアラハ鐵道係總ニ依リ小倉

紫川、水ヲ引用スヘシ郡會(使用ニ付)、決議アリ距離一里
半石炭供給ニ至ラハ他ノ企テ及フ所ニアラス既ニ筑豊鐵道
アリ九州鐵道黑崎、分線(黑崎ヨリ尾倉枝光ヲ經過シ戸
畑ニ出テ支ヨリ小倉鐵道ニ聯絡シ門司ニ通ス)成リ筑紫
等、鐵道連絡セハ石炭ノ出ル益々多ク若松方面ノミナ
ラズ其對岸ナル戸畑方面ヨリモ積スルニ至リ筑豊煤田
ノ炭ハ萃テ茲ニ集合シ船舶、輻湊今日ニ數倍スル毫
モ疑ナ容レヌ故ニ石炭供給ニ於テハ此港ニ優ルノ場所ア
ルヘカヲ用地購買用水引用等創立費ニ於テ他ニ比シ
減スル所アリ作業ニ至リハ第一ニ最モ多額ヲ要スル石炭ヲ
最モ安^廉ニ得ル、望ミアリ水陸共ニ運送、便アリ依テ遂
ニ製鐵所ヲ茲ニ建設スルニ決セリ

運搬スヘキ物品、噸數

石 炭

廿一萬六千〇四十三噸

銑鐵及屑鐵

三萬〇二百八十噸

滿俺鐵及鏡鐵

三千九百二十一噸

石灰石

三萬五千噸

製 品 レール其他

六萬噸

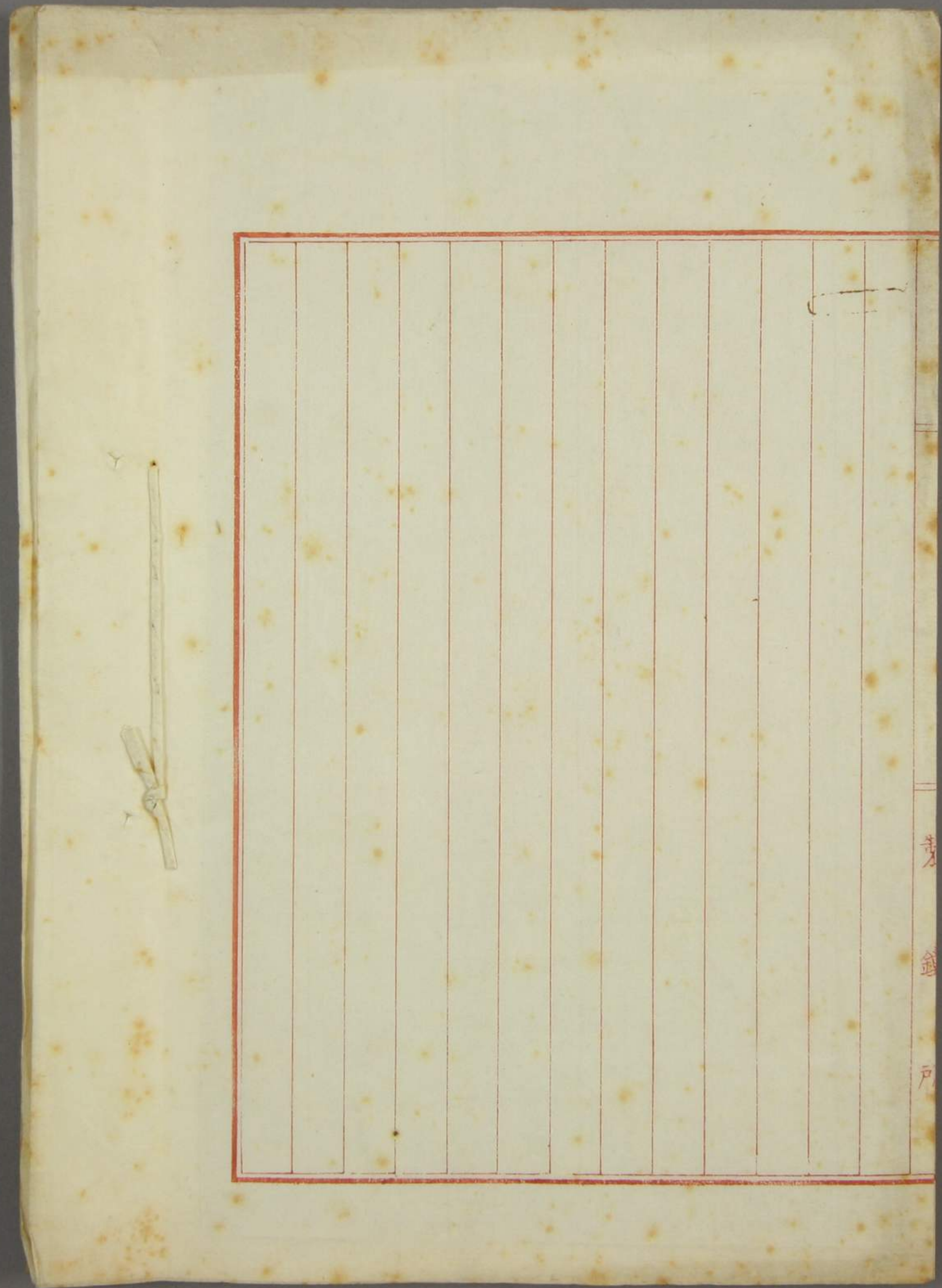
合計 四十三萬二千七百四十四噸

内 石灰石 三萬五千噸 ヲ降スレバ

三十九萬七千七百四十四噸

右之内 ヨリ 石炭 廿一萬六千〇四十三噸 ヲ降スレバ 水運 ノ分ハ

十八萬千七百零七噸 トナル (八幡村ニ於テハ)



第

金

戶